

住宅地の被害

柏崎市には、郊外に造成宅地が数ヶ所存在する。代表的な造成地は、西部の米山台、南部の向陽町・ゆりが丘などである。米山台には顕著な被害は認められなかったが、向陽町・ゆりが丘など南部の造成地には、谷埋め盛土や腹付け盛土で、顕著な変状が認められた。

西部の米山台は、新第三系の米山層分布域にある。米山層は主に安山岩質の火山砕屑岩で構成されている。造成地内の盛土も同質の地盤起源（安山岩質火山砕屑岩類）のものと考えられる。

南部の向陽町・ゆりが丘などは、第四系の安田層の分布域にある。安田層はシルト層と砂層の互層で構成され、沖積面からの比高が10～30mの段丘地形をしている。段丘面は開析が進み谷地形が形成されている。造成宅地は、これらの谷の一部を埋めて造られている。



造成前の地形（昭和50年）
<http://nlftp.mlit.go.jp/WebGIS/>より



向陽町付近の造成状況と被害分布

現在の造成地を重ね、谷埋め盛土の分布とクラック位置の一部を表示。変状は谷埋め盛土部に多く発生していることがわかる。



向陽町内の谷埋め盛土地盤内に何列も入る引っ張り亀裂。家屋は外観上大きく傷んでいないが、中は傾いており被害は大きい。